

I 学校の教育目標

互いの成長を認め合いながら自ら道を拓く生徒の育成

II 育成を目指す資質・能力

問題発見・解決能力

IV 学校評価4点セットの学力の重点目標

自分に合った学び方で基本的内容を習得する力

V 学校評価4点セットの学力に関する達成指標

・学力調査における正答率50%以上を70%以上 ※定期テストも同様 ・「自分に合ったやり方を見つけ、家庭学習に取り組むことができる」の「そう思う」の回答を50%以上

VI 授業改善の取組（「授業改善の5点セット」目標達成に向けた組織的な授業改善）

①授業改善 テーマ	自立した学習者の育成
②授業改善の 重点	～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実～

（研究仮説）

課題解決にむけ、「個別最適な学び」を通して個性化・自立化した学習を進めていき、また「協働的な学び」を通じて、自らの学びを深めさせていけば、「自立した学習者」の実現につながるであろう。

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証（成果・課題）
1 学期	個別最適な学びで、自分に合った学び方を見つけ、協働的な学習で互いに協力しながら、課題解決にむけた学びを深めさせる場の設定	①毎時間5分間キュビナ問題、キュビナテスト、自分で考える家庭学習の運動 ②週に1回以上、学習班や研究班を活用した交流活動や協働的な学習で課題解決に向けた話し合いの場を設定する ③個や班活動で、自分に合った調べ方、情報、手順などを見つけ、課題解決につなげさせる	①「自分に合ったやり方を見つけ、家庭学習に取り組むことができる」という問いに「そう思う」と回答する生徒を50%以上に する ②「交流活動を課題の解決に役立てることができた」という問いに「そう思う」と回答する生徒50%以上に する ③「課題の解決にむけて、自分に合ったやり方を見つけることができた」という問いに「そう思う」と回答する生徒を50%以上	

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証（成果・課題）
2 学期				

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証（成果・課題）
3 学期				

III 児童・生徒の課題

	学力状況について	学習状況について
児童・生徒の課題	・全国学力学習状況調査では、全国値を国語は3ポイント上回り、数学は3ポイント下回った。 ・1月の市学力調査では、1・2年とも国語、数学、理科、英語で全国値を上回った。1年は、知識では、数学、理科、英語、活用では国語、英語が全国値よりも高かった。2年は、知識では、国語、数学、理科、英語、活用では国語、数学、英語が全国値よりも高かった。	・R6年度県学力定着状況調査における質問紙から、「学校の授業以外で、毎日勉強している生徒」は半数以上いる。「勉強するときは、自分でいつも計画を立てている生徒」は約3割いるが、「全く立てていない」生徒が約2割。「学校の授業の予習や復習をいつもしている生徒」は1割で、全くしていない生徒は約2割程度いる。C層の生徒を中心に家庭学習習慣の改善が必要である。

VII 学習定着状況の把握とフォローの取組 および
個に応じた学習の取組（補充学習・習熟度別指導等） ※評価はプルダウンで選択

	重点的取組	取組指標	評価
1 学期	・5教科の授業でのキュビナタイム（基礎・基本の定着） ・各教科のキュビナタイムの定着確認テストを毎週火・木曜日に実施	・毎授業の5分間キュビナ学習、週2回のキュビナテスト、家庭学習の運動を図る。 ・授業者（学級担任）は月1回以上、「学び方シート」を活用して学び方を振り返らせる。	
2 学期			
3 学期			

◎＝達成（10割以上）、○＝概ね達成（8割以上）、△＝やや未達成（6割以上）、×＝未達成（6割未満）

VIII 学校・家庭・地域の協働の取組 ※評価はプルダウンで選択

	重点的取組	取組指標	評価	1 学期	2 学期	3 学期
家庭	保護者は、生徒が自分に合ったやり方で家庭学習の習慣が定着しているか、月1回「家庭学習をふりかえる」（家庭学習時間 1年70分、2年80分、3年90分）	・保護者が生徒の生活ノートの家庭学習時間を確認し、目標時間を達成できるよう月1回コメントを書く。				
地域	三花・小野公民館と連携を図り、地域の老人会との合同の活動を行う。地域のゲストティーチャーに野菜栽培、作品制作、防災などの指導をしていただく。	・総合的な学習の時間を中心に地域の方々との交流を学期に1回以上行う。				

◎＝達成（10割以上）、○＝概ね達成（8割以上）、△＝やや未達成（6割以上）、×＝未達成（6割未満）

IX 令和7年度日田市アクションプランの達成指標・取組指標

1 学校評価4点セットの達成状況

令和7年度学校評価の4点セット 達成指標（学力）の評価	1学期	2学期	3学期	※学期末の評価を1～4で入力 （達成指標が複数ある場合は、平均を四捨五入した数値）

※プルダウンで数値を選択

2 取組指標

①	「新大分スタンダード」と自校の【③取組内容】に基づいて、単元計画と本時案（略案）を作成して、授業を担当する全教員が11月までに公開授業（互見授業含む）を実施する。	授業担当者数 人	授業を公開した教員の割合	
			7月末時点	11月末時点
			%	%

※割合（%）は四捨五入して整数表示

②	管理職または教務主任等は、授業観察シートをもとに、経験の浅い教員（採用10年以内）1人に対し学期に3回以上授業観察を行う。	1 学期	2 学期	3 学期

※プルダウンで○、×を選択

③	計画的に互見授業を実施し、全教員が学期に1回以上自校の教員の授業を参観する（校内研を除く）。	1 学期	2 学期	3 学期

※プルダウンで○、×を選択